

琉球大学学術リポジトリ

Ryudai News Letter `23(Vol.32)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学 公開日: 2024-05-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 琉球大学 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24564/0002020380

News Letter

琉球大学広報誌

2023 April Vol.32



377.3

SO

32

中資 雑誌

琉球大学附属図書館



0020238001954



琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

<https://www.u-ryukyu.ac.jp/>

Island wisdom, for the world, for the future.

News Letter Vol.32 2023年4月発行
 〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
 総務部総務課広報係
 TEL.098-895-8175 kohokoho@acs.u-ryukyu.ac.jp

[目次]

- 注目! 琉大生 02
グローバル・commons・コンシェルジュ メンバー
- 特集Ⅰ: 03
琉球大学におけるDXの取組
- 特集Ⅱ: 05
世界のウチナンチュ大会における
琉球大学の取組
- 特集Ⅲ: 07
授業紹介
 - ・吉村 裕美 先生 「日本語研究入門」
 - ・渡久山 清美 先生 「マスコミと社会」
 - ・小島 肇 先生 「琉大特色・地域創生特別講義Ⅰ」
(地域創生のためのデジタルマーケティング入門)
 - 「キャリア関係特別講義Ⅴ」
(人生100年時代におけるキャリア開発のための働き方入門)
 - 「情報科学演習」
 - ・岡崎 威生 先生
- ニューストピックス 11
- 大学基金だより 13

グローバル・commons・コンシェルジュ メンバー

(後列左から)

国際地域創造学部4年次 富永 時貞さん、地域共創研究科 Lyu Youさん(参加者)、
国際地域創造学部3年次 照屋 莉音さん、教育学部4年次 岸本 妃南子さん

(前列左から)

国際地域創造学部3年次 高良 菜那さん、国際地域創造学部3年次 Yang
Juanzhen さん(参加者)、理工学研究科 Malistani Neamatullah さん(参加者)、
理学部3年次 屋富祖 七海さん(参加者)

GCCとは・・・

GCC(グローバル・commons・コンシェルジュ)は、琉大生の外国語学
習や留学をはじめ、国際交流に興味の
ある学生をサポートする学生グループ
です。日本人学生や外国人留学生が各
イベントに参加し、英語や中国語、日
本語等での会話を楽しみながら語学
力を伸ばす目的とした活動や、留学経
験や知識のあるメンバーに、留学情報
や語学学習の方法について相談でき
るカウンセリングや、ワークショップを
行っています。学生同士だからこそ気
軽にお話できるのがポイントです。
様々な人の経験から学習の楽しさを
学び、海外経験に一步踏み出せるよ
うな機会になればという想いで日々活
動しています。



(後列左から)

国際地域創造学部4年次 富永 時貞さん、国際地域創造学部1年次 宮川 佳奈依さん(参加者)、
国際地域創造学部3年次 島袋 勇美さん(参加者)、国際地域創造学部3年次 玉城 悠里さん(参加者)

(前列左から)

国際地域創造学部3年次 照屋 莉音さん、教育学部3年次 茂 朋志さん、
国際地域創造学部2年次 屋宜 真乃心さん

注目!琉大生

グローバル・コモンズ・コンシェルジュ

GCC

中心メンバーコメント

GCCとして琉大生に英語学習の機会を提供できることにももちろん楽しさを感じますが、偉大な先輩方から受け継いだGCCという組織の中で活動できていること、素敵な現GCCメンバーに囲まれていることが何より楽しいし嬉しいなと思います。外国語や国際交流に興味があってもGCCのイベントに参加したことがない琉大生も多いと思うので、誰でも気軽に参加しやすいような、さらに素敵なコミュニティにしていきたいです! (教育学部4年 岸本 妃南子)

私たちは日本語・英語などの会話力向上や、留学情報の提供などを行っています。特にしばふJapaneseとしばふEnglishは、海外からの留学生と日本人学生の交流の場所になっています。英語はまだこれから!という方もしばふEnglishへの参加でグングン伸びています。

お気軽に参加してみませんか? (教育学部3年 茂 朋志)

GCCでは、しばふEnglish/Japaneseという英語・日本語会話のセッションを実施しています。GCCメンバーがホストを行っており、進行の流れを考えたり、周りの状況を見たりと、多少の難しさを感じます。しかし、それ以上に参加者から「楽しかった!」「また参加したい!」という声が届みになっています。(国際地域創造学部2年 屋宜 真乃心)



Instagram



LINE



WEBサイト



背景と経緯

世界的にあらゆる面での破壊的変革が進み、わが国でもデジタル技術によるビジネスや生活の変革を目指すDX(デジタルトランスフォーメーション)を通して、デジタル社会への変革の歩みが強まっています。大学は、学理を追求する中で人材を育成することに加え、自らを変革して、この社会の歩みを牽引する役割を果たす必要があります。

琉球大学は、業務のデジタル化や組織・活動の改革の取組を強めつつ沖縄ならではの特色を付加し、ポストコロナの新しい大学の姿を見据えて、本学の存在価値を再構築することを目指す「琉大トランスフォーメーション(RX)」推進プロジェクトを立ち上げることとしました。学長は2022年8月16日に「RX推進宣言」を発表しました。

RX推進宣言

世界では、急速なICTやAIの発展やボーダレス化等により、社会のあらゆる局面において破壊的変革が進んできています。日本は、経済成長の減速や人口減などによる厳しい状況の中で、これらの流れに対応しなければなりません。そのため、さまざまな組織で、デジタル技術によりビジネスや生活を変革しようとするデジタルトランスフォーメーション(DX)に取り組んでおり、デジタル社会への歩みが強まっています。このような状況の中、大学の本分である教育・研究・社会貢献を進めつつ、自らを変革するとともに、この社会の歩みを牽引するという役割を果たさねばなりません。

琉球大学は、これまで適時、業務のデジタル化や組織・活動の改革を行ってきました。今、その取組を一層強め、さらに沖縄ならではの特色を付加し、ポストコロナの新しい大学の姿を見据えて、本学の存在価値を再構築する変革(トランスフォーメーション)を早急に進める時を迎えています。

そこで本学では、DXを通じて教育と学生支援・研究・医療・運営、そして働き方を大きく変革することを目指す「琉大トランスフォーメーション」推進プロジェクトを立ち上げます。RX推進プロジェクトは、「楽しくチャレンジ」「まず実行」を念頭に、全学の一人一人の知恵と力を合わせ、個々の課題に取り組み、その結果から学び、さらに新たな課題に取り組んでいくサイクルを迅速に廻すスタイルを進めます。

本学は、RX推進プロジェクトを通じて、大学機能の高度化と構成員の充実したキャンパスライフを実現するとともに、「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」としてさらに前進することを目指します。

このRX推進宣言を受けて、RX推進基本方針が制定されています。基本方針には、個別の業務・処理プロセスをデジタル化し、次のステップでデジタル化を生かした業務システム全体を変革した上で、大学機能の高度化と構成員の充実したキャンパスライフを実現して地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学となることを説明しています。業務・運営RX、教育・学生支援RX、研究RX、医療RX、地域貢献・国際交流RXと5つの業務分野に整理し、各担当理事の下で検討・実施していきます。また取組のスタイルとして、「楽しくチャレンジ」「まず実行」を念頭にしたアジャイル型手法(短期間で要求の変更への対応を積み重ねる開発手法)を用いて進めることを明示しています。



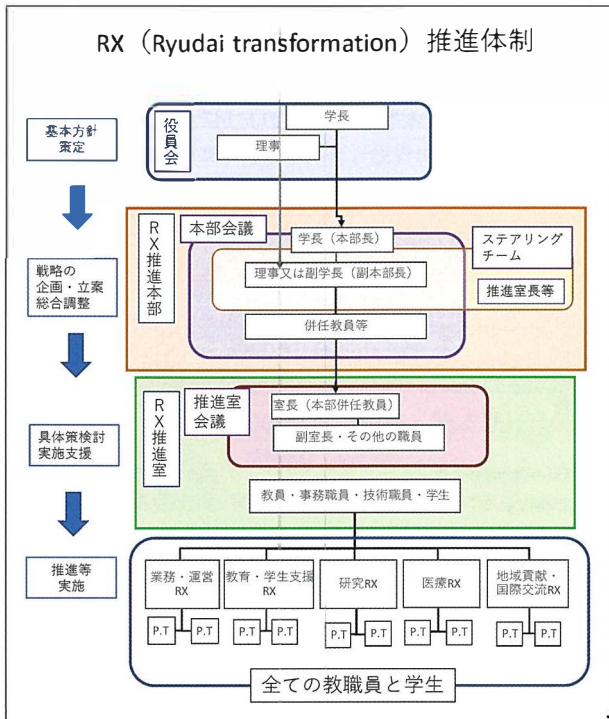
学長メッセージ

琉大トランスフォーメーション(RX)の手法、プロセス、目指すところ



RX推進体制

学長を本部長とするRX推進本部においてRX戦略の企画・立案を行います。RX推進本部の下にRX推進室を設置し、具体策の検討・実施や実施支援を行います。そして個々の課題毎にプロジェクトチームを設置し、解決に取り組めます。



への署名及び押印を不要にすることができています。また、電子決裁システムを利用するなど、併せて決裁フローも改善した結果、許可書送付まで平均2か月を要していたところ、約10日まで短縮することができました。新制度を開始してから、約一月後の時点で、456件の兼業を電子申請で受け付けていますが、大きな混乱もなく、順調に処理を進めています。今後は、部局担当者にヒアリングを実施し、継続して業務改善を進めていく予定です。

また、令和5年2月には、情報基盤統括センターで発行しているユーザID(教育研究用)の継続申請を Microsoft Formsの利用により、ペーパーレス化いたしました。その結果、紙の使用量を前年比の約4分の1に削減することが出来ました。



左から、情報企画課の安座間理恵さん、大川康治さん、情報基盤統括センターの庄司博光さん、仲地孝之さん、新田保敏さん

取組事例

すでに10のプロジェクトチームが活動を始めており、実用化されたものもあります。令和4年11月にMicrosoft Formsを利用した「電子申請制度」を開始しました。この制度により、紙による兼業依頼を廃止し、兼業申請依頼状



(後列左から)職員課の本郷弘子さん、小橋川清子さん、学長企画室の東江俊郎さん(前列左から)職員課の赤額美佐江さん、末吉ひかるさん、松原智子さん

さらに、学生参加による課題解決も始まっています。工学部工学科知能情報コースのソフトウェア開発演習I(2年必修科目)は学生チームによるソフトウェアの開発実践を行う科目で、令和4年度第3クォーターでは大学事務から提供された4件の課題に対して8チームが、アジャイル型開発による業務サービスを自動化するアプリの制作に取り組みました。その後、職員を構成メンバーとしたプロジェクトチームにおいて、アプリの実運用を目指して調整を行っています。

今後の進め方

これから、業務・運営、教育・学生支援、研究、医療、地域貢献・国際交流それぞれのRXにおいて取り組むべき項目を整理し、教職員の皆さんから業務改善や企画について意見を伺います。また、令和5年度以降の活動基本計画を策定し、RX推進を着実に実施していきます。

第7回世界のウチナーンチュ大会2022記念シンポジウム

「琉球大学と中南米県系人との未来連携を考える～これまでの取り組み、今後の展望～」

第7回世界のウチナーンチュ大会(開催期間：2022年10月31日～11月3日)に合わせ、大会の趣旨である「未来に向けた沖縄と中南米ウチナーンチュの連携」について本学が果たすべく役割を様々な視点から考えることを目的として2022年11月1日、本学にて記念シンポジウム「琉球大学と中南米県系人との未来連携を考える～これまでの取り組み、今後の展望～」が開催されました。当日は会場での対面、ブラジルやアルゼンチンの中南米とオンライン(Zoom)で繋いだハイブリッド形式で実施され、海外からのウチナーンチュを含め、学内外から114名が参加しました(対面56名、Zoom58名)。

第1部基調講演では、本学や中南米にゆかりがある6名の講演者から中南米や本学での体験談等の講話がありました。第2部では本シンポジウムのテーマに沿い、前学長の大城肇氏を迎え、カスタロ工学部教授のファシリテーションにより、会場に参加していた沖縄県人会代表者等との質疑応答形式によるパネルディスカッションが、日本語、スペイン語、本学留学生のワリゴダさんのポルトガル語での通訳も交えて行われました。

大城前学長からは、本学の中南米サテライトオフィスの設置、ブラジル、アルゼンチン、ボリビア、ペルーの各沖縄県人会と連携協定を締結したことなど、本学のこれまでの取組について報告がありました。また、本学の牛窪理事からは、大学の国際戦略基本方針等で謳われている沖縄県系人との連携強化のため、前述の中南米4カ国の沖縄県人会からの留学生受入支援制度新設に向けた検討が行われているとの説明がありました。

これに対し会場からは、県系人受け入れ促進の取組は、琉球大学に留学を希望する若者にとって非常にありがたいことであり、留学希望者の専門性と受入側のマッチングが上手くいくよう期待したいとの意見がありました。さらに、留学生受入れの一方だけでなく、沖縄からも多くの学生を中南米に派遣してもらい、双方向の交流を進め、留学後の県系人の将来も担保できるようなシステム作りが重要である、との意見もありました。

今回のシンポジウムでは、中南米沖縄県人会と本学との連携強化を目指す有意義な意見交換が行われたと同時に、入口から出口まで、大学としてどのように協力連携していくべきかという、今後の交流促進に向けた取組を行っていく上で新たな課題も生まれました。

中南米各国との連携をこれまで以上に活発なものにするためにも、さっそく本シンポジウムで報告された沖縄県系人受入支援制度について、2024年度前学期から受け入れが開始できるよう、創設に向けて準備を進めています。

第7回 世界のウチナーンチュ大会2022 記念シンポジウム

琉球大学と中南米県系人との未来連携を考える ～これまでの取り組み、今後の展望～

【第1部 基調講演 5:00-6:40pm】
 <使用言語：日本語>

1. 「中南米の魅力と接し方」 三輪 能弘 (元外務省職員)
2. 「琉球大学による中南米県系人への移民調査」 宮内 久光 (琉球大学教授)
3. 「中南米地域における防災の取組み」 伊良部 秀輔 (LAC環境防災7d'バイ')
4. 「県系人としての日本での歩み」 備保 ルシーラ悦子 (上智大学准教授)
5. 「沖縄留学経験」 宮城 エルネスト (アエヌ/アエヌ大学助教授)
6. 「ボリビア開拓記外伝」 渡邊 英樹 (代々木西脇ビルグループ 会長)

【第2部 パネルディスカッション 6:50-7:30pm】
 琉球大学と中南米県系人との未来連携について
 <使用言語：日本語・スペイン語・ポルトガル語>
 大城 肇 (琉球大学第16代学長)、牛窪 潔 (琉球大学国際交流担当理事)、
 三輪 能弘、備保 ルシーラ悦子、渡邊 英樹、各沖縄県人会代表

2022年11月1日 (火) 5:00~7:30PM(JST)
琉球大学 全保連ステーション (大学会館) 3階

※オンライン (Zoom) 参加希望の場合 → 当日会場にお越しの場合は、事前登録は必要ありません。
 事前申込が必要です。以下のURLもしくはQRコードから
 事前に登録をお願いします。
 申込URL： <https://forms.office.com/r/tYb3YmHh6J>
 申込締切：2022年10月31日 (月)

【主催】 国立大学法人琉球大学
 問合せ： 琉球大学総合企画戦略部国際連携推進課
 Email: kosoumu@acs.u-ryukyu.ac.jp Tel: 098-895-8139
 大学HP: <https://www.u-ryukyu.ac.jp/> 【会場】 沖縄県



学生企画イベント『出張しばふ Japanese@ウチナーンチュ大会～琉大生と日本語でゆんたくしよう!～』

琉球大学では、「海外沖縄県系人ネットワークとの連携」を国際戦略の1つとして掲げており、長年にわたり北米や中南米からの沖縄県系留学生の受入や移民研究等積極的に取り組んでいます。これまでにハワイや南米4カ国、台湾の沖縄県人会と連携協力覚書を締結し、相互交流を推進しています。

令和4年10月31日～11月3日に沖縄県内で開催された「第7回世界のウチナーンチュ大会」では、中期将来ビジョンにおける海外沖縄県系人等ネットワークとの交流促進の取組として、本学からGCC(グローバル・コモンズ・コンシェルジュ)学生が中心となって、海外参加者と交流するイベントを開催しました。「世界のウチナーンチュ(沖縄県系人)大会」は、海外の沖縄県系人等が沖縄に集い、県民との交流を通して次世代のウチナーンチュネットワークの拡大・発展やアイデンティティの継承等に繋げることを目的として、概ね5年毎に沖縄で開催されています。

ウチナーンチュ大会では、海外参加者と日本語での会話を楽しむアクティビティを企画し、海外からの県人会をはじめ、県内外から約90名以上の参加者が本学ブースを訪れました。ハワイやグアムをはじめ、ペルーやブラジル、ボリビアなどの南米諸国から訪れた県系参加者と日本語や英語で楽しく会話を交わし、また南米出身県系人にスペイン語やポルトガル語などを教わり、言語交換を通して新しい学びのきっかけにもなりました。沖縄の文化に関するクイズや早口言葉ゲームをするなど盛り上がり、交流を通して相互の言語や文化について異文化理解を深めることができました。

第7回世界のウチナーンチュ大会学生企画イベント
The 7th Worldwide Uchinanchu Festival Student Project Event

出張しばふ JAPANESE@ウチナーンチュ大会
～琉大生と日本語でゆんたくしよう～

Shibafu Japanese @ Uchinanchu festival

～ Let's yuntaku (chat) with students from the University of the Ryukyus ～



2022年10月31日(月) 18:00～21:00
11月1日(火) 18:00～21:00
11月3日(木) 11:00～21:00

10/31 Mon 6-9pm
11/01 Tue 6-9pm
11/03 Thu 11am-9pm

ウチナーンチュ大会会場内(沖縄セルラーパーク那覇)

@ Okinawa Cellular Park Naha

いろんな国、いろんな年代、誰でもwelcome!
琉大生が海外ウチナーンチュと自由にあしゅべり
日本語を中心として母国語も交えながら楽しく異文化交流

Anyone from all countries & ages can join us for a chat together!
Enjoy the cultural exchange, language learning and more with people from all over the world!



日本語研究入門

人文社会学部 教授

よし むら ひろ み

吉村 裕美先生

はじめに

新入生の気持ちになってみました。

大学に入ったら、興味がある授業だけでいいと思っていたのに「共通教育」を履修しなければいけないらしい。空き時間で受講できそうなのは？「日本語研究入門」？日本語なら何とかなるかも。

このように、「日本語研究入門」の履修者の多くは、消極的な動機で履修登録してきます。そんな受講生たちに、どうやったら日本語学のおもしろさを少しでも感じてもらえるか？これが私のチャレンジです。

日本語学とは？

人間は言語によってコミュニケーションをし、社会活動を行っています。言語(特に第一言語)は、日常生活において、空気のような存在であり、ふだんはそのしくみやはたらきについて考えることはありません。しかし、そこに「？」を発見し、用例を集めながら考察を進め、分析していくと、文化的な背景や、歴史的な変化の痕跡や、変わり続ける日本語の姿が浮かび上がってきます。こんな日本語学の魅力を伝えたいと思っています。



学習者の力を信じて

大学生のころ、野外活動リーダーをしていました。そこで先輩リーダーに教えられたことがあります。それは、「与えすぎないこと」「教えすぎないこと」「子どもの発想を信じること」でした。この教えは、大学での授業の組み立てでも生きてきます。

「日本語研究入門」では、日頃何気なく使っている日本語の表現について、「何で？」という問いを提供します。そして時には、分析に必要な理論を少しだけ伝えます。そしてグループワークをしてもらいます。学生たちは、議論をしながら分析していきます。

たとえば、日本語の文字体系は何種類も文字を使っていて複雑です。しかし、学生たちに「じゃあ、ローマ字だけにする？」「全部カタカナはどう？」と投げかけると、今の複雑な文字の使い分けを維持したいと言います。では、なぜそう思うのか？どういう利点があるのか？を問うと、学生たちは考え始めます。調べていくと、国語国字問題の歴史的経緯に気づき、考察が進みます。それをじっと見守り、時にヒントを出す。オンラインでも対面でも、このような形で授業をしています。

対面授業ができなくなった2020年度は、まだ不慣れだったため、グループワークを取り入れることができませんでしたが、2021年度は、オンラインでもグループワークを主体とした授業をすることができました。2022年度は、対面授業に戻り、さらに改革を進め、反転型の授業にチャレンジしました。学生たちの協力で、前進することができています。

「しかたなく履修したけど、取ってよかった」と言ってもらえる授業を目指し、もっとできることがないか、模索していきたいと思っています。

マスコミと社会

人文社会学部 講師

とくやま きよみ
渡久山 清美先生

はじめに

令和3年度のプロフェッサー・オブ・ザ・イヤー賞の受賞にあたり、コロナ禍で遠隔講義となった「マスコミと社会」とともに創り上げてくれた学生と教職員やスタッフのご協力に心より感謝いたします。

本講義の概要と目標

「マスコミと社会」は、現代社会におけるメディアの役割や影響を、講義やドキュメンタリー視聴、グループワークやレポート作成を通して考察していく授業です。Microsoft Teamsでのライブ講義に対するコメントペーパーやレポートをWebClassに提出してもらい、私のコメントを付けて点数を返却しました。

本講義では、ジャーナリズムの機能や意義を理解し、メディアの報道やSNSで拡散される情報に関して建設的な批判ができることを目指しています。また、身近な沖縄の社会における報道を取り上げ、弱者の立場に立って報道する「ケアのジャーナリズム」の実践について知見を深めます。学んだ理論や概念を用い、記事や動画を分析し、ジャーナリズム・リテラシーを身に付けていきます。令和3年度は、沖縄のみならず全国や海外でも問題になっている水質汚染に関する『永遠の化学物質 水のPFAS汚染』や「ケアのジャーナリズム」の重要性について説く『オンナ・コドモのジャーナリズム』などの書籍を参考に講義を進めました。



参考文献

ジョン・ミッチェル 小泉昭夫 島袋夏子 阿部小涼 訳(2020)
『永遠の化学物質 水のPFAS汚染』 岩波書店。
林香里(2011)『オンナ・コドモのジャーナリズム ケアの倫理とともに』 岩波書店。



オンライン講義でのグループワークについて

グループワークでは、私たちが日ごろ接しているマス・メディアやSNSのコミュニケーションの特徴や課題を多角的に捉え、日々のメディア接触で活かせる方法などを考えていきます。沖縄のメディアや書籍からPFAS水質汚染報道について学んだあと、情報発信のアイデアを共有しました。PFAS汚染について初めて知り、マス・メディアの報道が自分たちの暮らしや命を守ることに直結していることが確認でき、自分でも何かしたいという学生の思いが伝わってきたからです。

オンラインでの発言に苦手意識のあった複数の学生も、次第に「次回は頑張る！」とグループリーダーを申し出たり、メンバーが話しやすいように大きくうなずいたり笑顔で応じたりと、それぞれが前向きに取り組んでくれました。私がTeamsの操作に苦心していると、辛抱強く待ち、対処法を調べアドバイスしてくれた学生もいます。

他学部の学生と交流できたことが楽しく、視野が広がったという意見も多かったので、話し合いを効果的に進められるように、学生の提案を毎回取り入れました。個人で意見をまとめる時間を設け、前回の授業のテーマとつなげてワークシートを作成し、メンバー構成も工夫したところ、意見交換が活発になったという声がありました。

おわりに

グループワークや私とのコメントペーパーのやり取りを通して、コミュニケーションを図る相手への思いやりが育まれていると感じました。講義で触れた、SNSで顕著になってきたヘイトスピーチや誹謗中傷に対して断固とした態度で臨む倫理観も培われたのではと期待しています。

琉大特色・地域創生特別講義Ⅰ (地域創生のためのデジタルマーケティング入門)

キャリア関係特別講義Ⅴ (人生100年時代におけるキャリア開発のための働き方入門)

地域連携推進機構 准教授

こじま はじめ
小島 肇先生

はじめに

今回、私が担当している科目が「琉大特色・地域創生科目」と「キャリア関係科目」の2部門でプロフェッサー・オブ・ザ・イヤーを受賞させて頂きました。名誉ある賞を2部門同時に頂き、授業に協力頂いている関係者の皆様に感謝するとともに、身の引き締まる思いです。誠に有難うございます。

私は前職で国土交通省の業務中心に、出向先の内閣府沖縄総合事務局では沖縄振興も担当していました。琉球大学が文部科学省の補助事業である「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択されたことを機に、それを担当する実務家教員として琉大に着任しました。以降、国土交通省や内閣府、沖縄美ら島財団などで培った専門的な知識や人脈、経験を活かして、沖縄の地域理解や地域振興、キャリアに関する科目を学内外の関係者と連携して担当しています。

講義の概要

今回プロフェッサー・オブ・ザ・イヤーの受賞対象となった2科目も、COC+を機に開講し、補助事業終了後も継続している科目です。「琉大特色・地域創生特別講義Ⅰ(地域創生のためのデジタルマーケティング入門)」は、2016年より開講している科目で、地理的な制約を超え、島嶼地域における成長産業として沖縄振興でも重要視されているICTに関連して、デジタルの発達により変化する企業のマーケティング活動を学ぶ内容として、世界展開する大手IT企業や地元銀行等の協力のもとに開講した科目です。2019年からは沖縄でデジタルマーケティングを行う企業やプログラミング教室を主宰している大森洋介先生とともに担当し、内容も発展してきています。もう1つの「キャリア関係特別講義Ⅴ(人生100年時代におけるキャリア開発のための働き方入門)」も「デジタルマーケティング入門」の開講に関わって頂いた企業の方を中心に、これからの働き方、県外企



業が沖縄をどう見ているか、沖縄の可能性等をキーワードに立ち上げたキャリア関係の科目です。外部講師の話題紹介も活用しつつ、沖縄という切り口で総括しています。これらの科目は「地域創生副専攻」の対象科目として、沖縄の地域特性理解や、地域振興等を学ぶ科目となっています。このほかにも「琉大特色・地域創生科目」において複数の科目を担当しており、共通教育科目として学部や学年を問わず受講できますので、興味のある科目があれば受講してみてください。具体的には、2019年と2020年にプロフェッサー・オブ・ザ・イヤー受賞させて頂いた「琉大特色・地域創生特別講義Ⅲ(地域創生のための地域商品開発入門)」や、沖縄の航空会社であるJTAやRACの寄附講義である「沖縄の航空事業と地域振興」及び「沖縄の航空事業と地域振興Ⅱ」、沖縄美ら海水族館等の管理運営を行っている沖縄美ら島財団の寄附講義である「琉大特色・地域創生特別講義Ⅳ(沖縄美ら島地域資源活用論)」など、沖縄の大学でしか学べない科目を多く担当しています。

自分の言葉で沖縄の魅力を発信

琉球大学には、「沖縄が好き」という学生が多くいます。それは良い傾向だと思いますが、授業で沖縄ことを取り上げると「初めて知った」「行ったこともない」という声も多く挙がってきます。沖縄には課題も多いですが、多くの魅力も持った地域であり、多くの事業・取組が展開されています。琉球大学の学生には、大学での学びを通して、根拠を持って自身の言葉で沖縄の魅力を発信し、「だから沖縄が好き」と主張できるようになって欲しい。そんな機会を提供できればと思います。きょうも教壇に立っています。



情報科学演習

工学部 教授

おか ぎき たけ お
岡崎 威生先生

はじめに

データサイエンスに関しては、データを起点とした価値判断や意思決定する姿勢を身につけられるように努めています。実社会で求められているのは実践力であることから、課題解決的な演習（データ収集、加工、表現、考察、意思決定）を取り入れています。限られた時間と知識・技術の中での演習活動は形だけのものになりがちで、実質化するためには学生の主体性が大きなカギとなります。意味のある課題設定や深い考察を実現するためにも、学生の自分事となるような工夫が大事だと感じます。

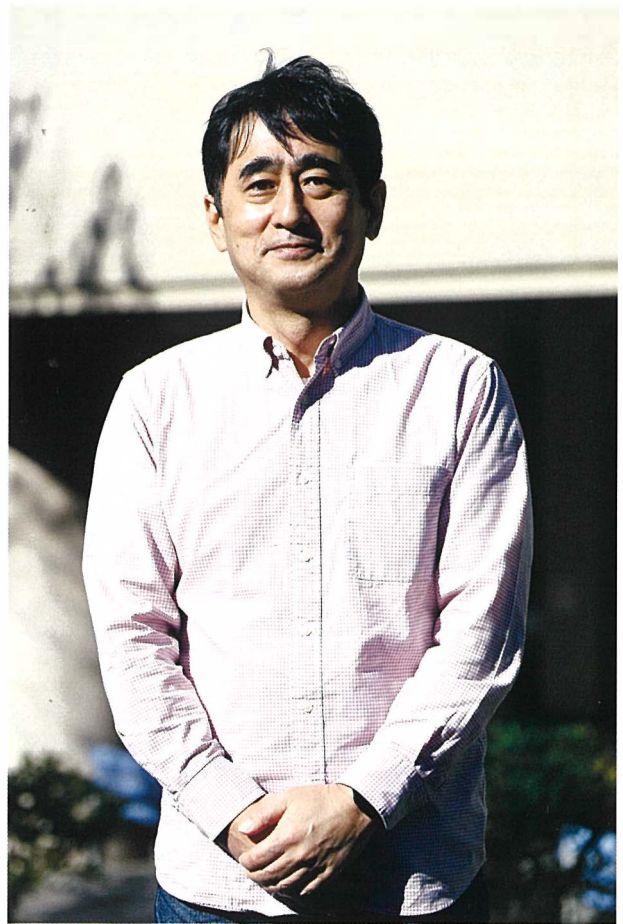
講義の概要

共通教育科目の情報科学演習では、コンピュータやインターネットなどの情報通信技術について学ぶことに加えて、情報モラルの理解やプレゼンテーションの実践に取り組んでいます。そして近年はデータサイエンスを取り上げて、基本的なデータの処理や結果解釈の演習を含めるようになりました。

Society5.0に代表される社会における情報技術の重要性の高まりと、初等中等教育での情報教育の充実によって、大学での情報教育の意義が変遷してきたことを表していると思います。

自分事として思慮する場

担当しているクラスは医学科指定で必修科目になっています。学生が科目履修登録に際して「判断」を必要としないことから、どうすれば主体的な態度で受講してもらえるかという点が大事だと考えて授業設計をしています。情報モラルにしるデータサイエンスにしる、今の大学生にとって非常に重要な基礎ス



キルですが、一般的な情報技術の説明や演習ではその場だけの活動になりがちです。自分事として深慮する場となるように、「医」にかかる情報モラルを各回の共通話題として設定しています。1年生前期履修なので専門的な知識や理解が身につく前ではありますが、入学直後のこれから学ぶ領域への探求意欲を活用したいと考えています。

学習環境による切り替えと適合

情報機器を利用する授業なのでパソコン実習室を教室として使っています。課題検討や関連情報収集、検討結果発表などをグループワークで実践する機会をつくり、その回は机レイアウトを自由にできる附属図書館ラーニング・コモンズに教室を移動します。こういう学習環境の変化が、学生にとっても学習モードの切り替えとなって主体性を高めるのではないかと期待しています。別のクラスでは、BYOD(Bring Your Own Device)に向けて設計された教室を利用してみました。学生持参の情報端末で授業を進行すると、機器の違いによる「躓き」に直面することがあります。それは逆に知識や技術を汎化させるとともに、対応しようとする姿勢の中に主体性が引き出されているように思います。与えられた学習環境ではなく、自分が環境を準備して学習活動に適合させる姿勢も重要だと感じました。

これからも、学生が学びを実感できるような支援を工夫し続けたいと思います。

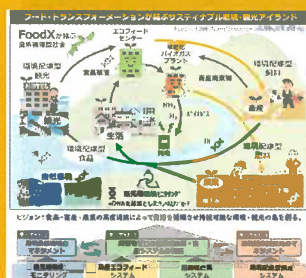


UR Topics

[11/29]

JST共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)【地域共創分野】に本学・自治体・企業からなるチームの提案が採択され、フード・トランスフォーメーションが

結ぶ環境・観光アイランド実現プロジェクトを開始



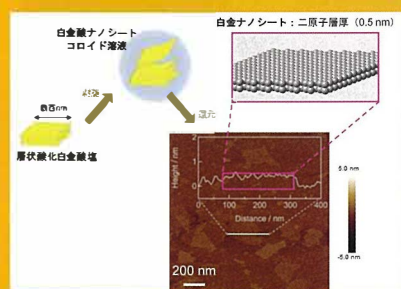
[12/20]

「琉大ミーバイ®」
中城村ふるさと納税品返礼品に登場!



[1/10]

高活性・高耐久な世界最薄の白金ナノシート電極触媒を開発
— 新奇軸の触媒開発で、FCVなどの飛躍的な普及拡大に期待 —



[1/12]

サンゴ礁島嶼における水循環と統合的水資源管理のための環境教育ツール(ボードゲーム)を開発



[1/13]

令和4年度 学生と学長との懇談会
(第3回及び第4回)を開催



[1/23]

高水温にさらされたサンゴは熱に強い子供をより多く作る?
～通常よりも多くの卵を作り、その卵から発生した幼生は熱耐性をもつ～



ガスで冷房! ガスで節電!



沖縄ガス

地球にやさしいガスをお届けします。

沖縄ガスHPはこちら





沖縄ガスはSDGsに取り組んでいます。



[2/15]

那覇市にある子どもの居場所に関する最新情報を
まとめたwebアプリ“icoi(いこい)”の公開



[12/12]

本学初となる「琉球大学
統合報告書2022」を
発行しました



[1/4]

2023年
学長年頭挨拶



琉球大学大学案内



琉球大学概要2022



琉球大学統合報告書2022



琉球料理
沖縄料理
と言えば
やっぱり
オキナム

この島のおいしいを、
100年先も。



〒904-0301 沖縄県読谷村字座喜味 2822-3 TEL 098-958-4330(代) FAX 098-958-4333



ISO9001/ISO14001 認証取得

(ビル設備管理、病院医療関連業務、建物の清掃業務、警備業務、総合建設業)

トップクラスの技術が見守る、安心感



日本総合整美株式会社

代表取締役 古川 祐起

沖縄本社: 沖縄県豊見城市豊崎3番地26 代表番号: 098-840-2777 FAX: 098-840-2780

【中部営業所・那覇営業所・浦添営業所】【先島営業所・東京本社】

大学基金だより

令和4年度琉球大学女子学生学術研究等活動うない奨励賞

令和5年2月9日(木)に令和4年度琉球大学女子学生学術研究等活動うない奨励賞の表彰式が行われました。本賞は、琉球大学特定基金「うない女性研究者・リーダー育成基金」による事業の一環として昨年度創設され、将来を担う優秀な女性リーダーの育成を目的に、本学的女子学生の意欲的な研究活動や社会貢献等の活動を表彰するものです。

多数の応募があった中、第2回目のグランプリには理工学研究科博士後期課程海洋環境学専攻1年次の古川真央さん「ミドリイシ属サンゴの生殖と種分化に関する研究」、準グランプリには理工学研究科博士後期課程知能情報プログラム3年次のMULLER, YUKIKO KISINOさん「Underwater Communication and Underwater Positioning for Underwater Drone Control」が選ばれ、審査委員長を務めた井上章二理事・副学長(教育・学生支援担当)より、表彰状と副賞として金一封が授与されました。

グランプリの古川さんからは「受賞できたことを大変光栄に思う。今後もミドリイシ属サンゴの生殖と種分化に関する研究活動にさらに励んでいき、研究を通して夢中になれる素晴らしさを未来の学生に伝えていきたい。」との意気込みが述べられ、準グランプリのMULLER YUKIKO KISINOさんからは「このような素晴らしい賞をいただけて光栄に思う。このプロジェクトは様々な企業・団体と連携して進めていて、今後は研究での知見を出身国(マーシャル諸島)にも還元していきたい。今回の受賞に心より感謝申し上げます。」と感謝の言葉が述べられました。

(上から)
理工学研究科博士後期課程海洋環境学専攻1年次 古川真央さん、
理工学研究科博士後期課程知能情報プログラム3年次 MULLER.YUKIKO.KISINOさん



紺綬褒章推薦のご案内

本学は、公益のために私財を寄附された個人・団体に授与される「紺綬褒章」の公益団体として内閣府賞勲局より認定を受けております。個人は500万円以上、団体は1,000万円以上、またあらかじめ申し出いただければ分納による寄附も含まれます。(完納時点での申請) 寄附者様の御意向等確認のうえ、本学から文部科学省(同省から内閣府)へ申請いたします。

※申請から受章まで概ね1年ほどかかります。審査につきましては、内閣府賞勲局にて行われますので、審査内容、審査結果の理由等についてのご回答、また、受章の確約はできかねますこと、あらかじめご了承ください。

ご寄附金額	授与されるもの
500万円以上	紺綬褒章、章記
1,500万円以上2,500万円未満	紺綬褒章、章記、木杯第五号
2,500万円以上5,000万円未満	紺綬褒章、章記、木杯第六号
5,000万円以上	紺綬褒章、章記、木杯第七号



出典：内閣府ホームページ

お問い合わせ先  **琉球大学基金室** 〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1
☎098-895-9013
✉ kikin@acs.jim.u-ryukyu.ac.jp  琉球大学基金

ゆうパック
スマホ割アプリ
宛て名ラベルの手書き不要!
アプリ内決済だから窓口でのお支払い不要!

かんたん
「かんたんSNSでお届け」機能で住所が分からなくても送れる!
コンビニなどに受取場所が変更できる!

iPhone版 
Android版 

荷物を送るなら「ゆうパックスマホ割アプリ」におまかせ!

やっぱり **ゆうパック** が いい さあ~!



トク
ゆうパック基本運賃から **180円割引!**
郵便局を受取り場所指定して発送すると **100円割引!**
年間10回以上の発送で、11回目から **10%割引!**

郵便局からの発送限定!

https://www.post.japanpost.jp/ ゆうパック 検索

【芳名簿】

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、社会全体が困難に直面する中、多くの方々より、本学へ多大なご支援を賜りました。心よりお礼申し上げます。本号では、令和4年9月から令和5年1月までに、琉球大学基金へご寄附いただいた際に同意をいただいた皆さまのご芳名(五十音順・敬称略)を掲載させていただきます。

法人

沖縄県立中部病院 沖縄県立北部病院 沖縄県立宮古病院 沖縄コカ・コーラボトリング株式会社 北中城村 宜野湾市
宜野湾市飲食業協会 金武町 スナベ株式会社 中城村 ペットショップオンリーワン 宮古島市 和仁屋自治会

個人

東江 平之	小倉 暢之	篠原 里美	土井 歩	西田 睦	比嘉 俊一	宮尾 徹
浅倉 幾美	木村 匠	島袋 真澄	東矢 光代	新田 早苗	比嘉 盛也	村上 呂里
新田 保秀	久高 友大	須加原 一博	富永 大介	野澤 文人	平敷 昭人	本村 真
有銘 工	小池 真由美	田中 寛二	直井 小百合	萩野 敦子	前島 修	諸見里 善一
井上 章二	木暮 一啓	知念 幸子	中川 鉄水	萩原 秋男	前原 武子	和田 直樹
小川 由英	下迫 俊司	筒井 正人	中村 真也	比嘉 桂	三觜 大介	

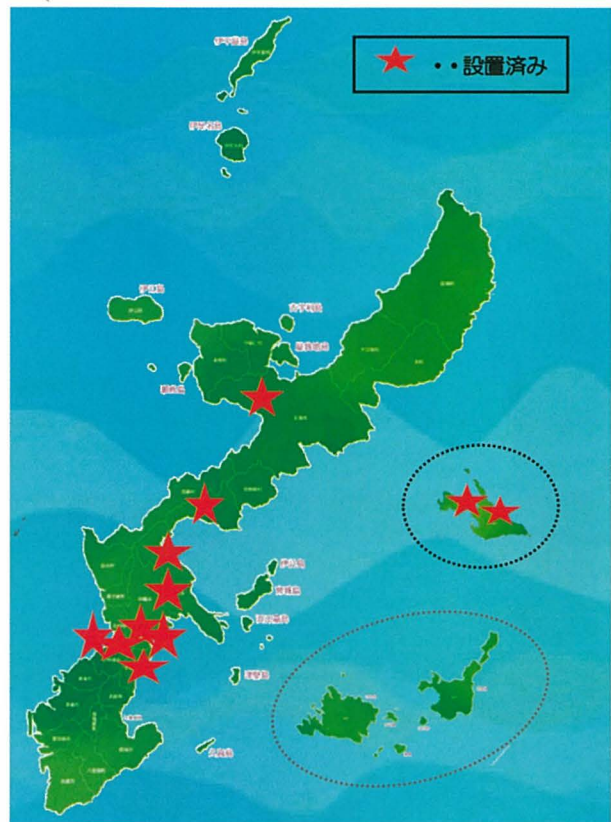
他128名

寄附型自動販売機設置状況

2022年 6月	西普天間住宅跡地(宜野湾市)	1台
	沖縄県立北部病院(名護市)	1台
7月	しおさい公苑(北中城村)	1台
	ペットショップパリーワ(うるま市)	1台
8月	北中城村和仁屋公民館	1台
9月	西普天間住宅跡地(宜野湾市)	1台
	宜野湾市役所本庁舎	2台
11月	中城村役場本庁舎	1台
12月	沖縄県立中部病院(うるま市)	1台
2023年 1月	金武町役場本庁舎	1台
	宮古島市役所本庁舎	2台
	沖縄県立宮古病院(宮古島市)	1台

沖縄健康医療推進基金にご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

本学では、寄附型自動販売機の設置賛同者を募っています。この自動販売機で飲料を購入すると、売り上げ1本につき、数円から10円程度のご寄付をいただくものです。



世界に誇れる
沖縄を、
もうひとつ
つくろう。

オリオン ザ・プレミアム



NEW

Orion



飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。お酒は、おいしく、適量に、のんだあとはリサイクル

オリオンビール株式会社
<https://www.orionbeer.co.jp/>



#14 岸本 隆一 選手

#24 田代 直希 選手

#4 コー・フリッピン 選手

全保連は、琉球ゴールデンキングスと
皆さんの就勝つを応援しています！



QUALITY FOR THE FUTURE
新たな価値へ、新たな未来へ

全保連株式会社